

学習者のつまずきを考慮した学習支援

10月1日（土）に「現代的学校教育の課題解決シリーズ 2016」の学び合う仲間による教員研修リレー講座の第7回が行われました。今回は、本大学講師の深谷達史（教育心理学）先生による、「学習者のつまずきを考慮した学習支援」と題して、認知カウンセリングによるつまずきの対処方法に関して、具体的事例を織り交ぜたアクティブ・ラーニングを中心にした学び合いが展開されました。理論と実践の統合を意図した学び合いは、とても楽しく分かりやすい内容であるため、参加した教員一人一人が主体的に活動していました。



<参加者の感想から>

- 認知カウンセリングの実際を知ることができ、勉強になった。ロールプレイでの診断的指導をもっと体験してみたかった。誤った知識・技法の診断まではできたが、学習方法や学習観の診断まではできなかった。自分自身、診断を行いながら、自身の知識のあやふやな点に気づくことができた。
- 職業柄、学校の先生方の授業を参観する機会が多くあるが、今回の講義で自分に欠落しているものが多いことを感じた。学校現場は大変忙しく、1時間の授業の中で一斉授業というスタイルで一人一人のつまずきに対応するのが難しいのが現状です。本日の講義で丸暗記ではなく情報を関連づけたり、根拠を考えさせたりすることを日々の授業の中で意識して取り組んでいくことが大切だと感じた。
- 日々、発達障害と思われる生徒への全体（クラス）の中で授業支援を行っている。何となくこれまでの数年で身に付けてきた感覚的な言葉がけや方法も、こうしたきちんとした計画の中で行えば、生徒個人に対する多くの大人の共感も得られ、生徒も多くの方々に見守っていただけるのではないかと思えた。
- 授業の中でつまずきを意識することが大切だと思った。今は授業をする立場ではないので、授業のサポートに入るときに役立ちます。つまずきを放っておくと、いろいろな面の障害が生まれてくるので、今日の話を生かして、サポートしていきたいと思った。
- ロールプレイによって、クライアントとして、カウンセリングした体験により、つまずいている子が、知識を整理できず、カウンセリング的なかわりができればよいと思った。
- 数学が分からない生徒とどう向き合うか、授業でと放課後の質問での教え方に取り入れて、授業は生徒が分かりやすい授業にする方法、道具の使い方を考えて参ります。ありがとうございました。